

項目	自己評価
短大組織マネジメント	<p>(1) 短大改組に向けての内容充実化</p> <p>1) 生活学科改組準備及び臨検学科収容定員増に見合った教員の確保とインフラの整備を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生活専攻・臨床検査学科の教員確保がかなった。</li> <li>・臨床検査学科教室の拡張工事、本町校舎1番・3番教室のICT整備が完了した。</li> </ul> <p>2) 短大の一部施設リロケーション実施による学生利便性の向上と設備を有効活用した。</p> <p>3) キャリアサポートセンターを移転し、PCラウンジを2号館地下に設置した。</p> <p>4) 体系的な就職支援強化を通じての就職内定率100%の達成を目指し、ほぼ達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終の就職内定率は、食物栄養専攻95.7%、専攻科97.7%及び臨床検査学科100%であった。</li> </ul> <p>(2) 教学体制・人材の強化と教育力の向上</p> <p>1) 食物・児童教育・臨床検査領域の将来を支える人材の確保に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物栄養専攻、児童教育専攻において、引き続き優秀人材の募集活動を継続している。</li> </ul> <p>2) 学長のガバナンス強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長のガバナンスを強化のため、主要項目を文書に纏めて示した。</li> </ul> <p>3) 2部長制導入による中堅教員の育成に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2部長制を導入し、中堅教員の育成に努力した。</li> </ul> <p>4) 教育の質保証に資するFD活動及びSD活動の充実を目指した。</p> <p>5) 非常勤講師を含めた教員の授業方法の改善を図った。 前期・後期での授業参観及び学生の授業アンケートを実施した。</p> <p>6) 不活性科目等の見直しを中心としたカリキュラム再編を実現した。</p> <p>7) 生活学科基礎科目の見直しによる科目の廃止及び新規科目の設置を行った。</p> <p>8) 「新渡戸フォリオ (manaba folio)」の活用による学習成果向上と就業力育成を目指した。</p> <p>9) 「新渡戸検定 (学科専攻編)」の内容を充実した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会及び新渡戸検定 (調理検定・SLP) を実施した。</li> </ul> <p>10) 高大連携の取り組みを継続し、内容の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短大教員による高1生活デザイン授業及び高2保健授業を実施した。</li> </ul> <p>(3) ICT環境の整備および施設設備の有効活用</p> <p>1) 1号館1, 3番教室のICT環境が整備された。</p> <p>2) 2号館地下PCラウンジを開設し、短大生のみならず中高生にも開放した。</p> <p>3) 学園全体を見渡した施設設備の共用化促進による有効活用を進めた。</p> <p>(4) 安定的な学生募集力の維持</p> <p>1) 優位性・独自性の発揮による学生募集力の強化を図った。</p> <p>2) 入学志願者の動向を先取りした効果的なオープンキャンパス実施及び指定校訪問を行った。</p> <p>3) オープンキャンパスの方法、指定校の見直し及び訪問記録の有効活用を進めた。</p>

項目	自己評価
生活学科・専攻科	<p>(1) 生活学科改組に向けた課題等への取り組み 〔食物栄養専攻〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新学科（2年制）及び専攻科（1年制）又は専門学校設置を睨んだ人材の発掘に努めた。</li> <li>2) 改組を睨んだ適材の発掘を継続している。</li> <li>3) インターンシップ演習を含めた演習・実習先を確保した。</li> <li>4) プロ料理師経験を有するような看板教員の発掘に努めた。</li> </ol> <p>〔児童生活専攻・専攻科〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新学科（2年制）設置および専攻科（1年制）維持を睨んだ人材の発掘に努めた。</li> <li>2) 退職者の補充と追加の人材を確保できた。改組を睨んだ適材の発掘を継続している。</li> <li>3) 学生の質向上および資格取得率向上を図った。</li> <li>4) 新就職実践演習における交流範囲を拡大した。</li> <li>5) 本物の体験を通じた実践力と保育力の向上に努めた。</li> <li>6) 教育実習指導の強化を図った。</li> </ol> <p>(2) 教育目標達成に向けた教学体制の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活学における生活力と漢字、計算、常識などの基礎学力をつけさせるための授業を展開した。</li> <li>2) 授業に加え、実習及びインターンシップを通じた実践力の向上を図った。</li> <li>3) カリキュラム見直しと公開授業等でのアンケート結果の分析結果を授業改善に繋げた。</li> <li>4) 生活学科基礎科目の見直しによる科目の廃止及び新規科目の設置を行った。</li> </ol> <p>(3) 教育環境の整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT環境の整備と施設設備の共用化による有効活用</li> </ol> <p>(4) 学生募集力の強化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 効果的なオープンキャンパス及び指定校訪問を展開した。</li> <li>2) オープンキャンパス追加を2回、新規進学相談会を3回実施し、重点指定校への再訪問を行った。</li> </ol>
臨床検査学科	<p>(1) 入学定員増（64名→80名）実現</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 収容定員増を効果的に打ち出した広報活動を展開した。</li> <li>2) 入学者の質の確保を目指した学生募集対策を強化した。</li> <li>3) 受験倍率目標3倍に対し、約4.2倍の結果となった。</li> <li>4) 効果的なオープンキャンパスの実施及び指定校訪問を行った。</li> <li>5) LINE等SNSを駆使したりリアルタイムの情報提供を行いフォローアップを強化した。</li> </ol> <p>(2) 定員増に対応した教員の授業力の強化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床検査についての深い知識と高い技術習得に向けた授業力・教員力の強化を図った。</li> <li>2) 過去3年間の入学者の成績・適性を検証したうえで、入試方法及び授業方法の改善を図った。</li> <li>3) 補講時間及び国試対策時間を活用し、学生の学力増進に繋がる指導を行った。</li> <li>4) 2クラス及び2校舎での授業展開を想定した28年度カリキュラムを編成した。</li> </ol> <p>(3) 高い新卒国試合格率並びに就職・進学率の維持</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国家試験合格目標：全員卒業、全員国試合格を目指したが、結果は95.1%であった。</li> <li>2) 就職内定・進学率目標：卒業年度内で100%を目指し、達成した。</li> <li>3) 教員、学生それぞれに国家試験対策委員会を設置した。</li> </ol> <p>(4) 施設設備の整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老朽化した機器、器具の更新を実施した。</li> <li>2) 教室ICT環境整備及び図書室の改装を実現した。</li> </ol>

項目	自己評価
研究所	<p>〔子ども教育研究所〕</p> <p>(1) 子どもに関する幅広い調査研究の出来る環境づくり、および『紀要』発行</p> <p>1) 年次総会開催・年間活動運営の方針を決定した。</p> <p>〔臨床検査研究所〕</p> <p>(1) 臨床検査学科の学術的情報発信と歴史の記録・研究所雑誌の作成</p> <p>1) 臨床検査学科の教員を対象にした研修会の開催は、公開講演会に代替した。</p> <p>2) 臨床検査学科の教員による研究活動の報告、発表会として第3回公開講演会(2/27)を開催した。</p> <p>〔新渡戸・森本研究所〕</p> <p>(1) 新渡戸稲造と森本厚吉に関する資料および情報の収集並びに収集した資料の整理</p> <p>1) 既に収集してある資料の整理を進めた。</p> <p>2) 卒業生などから新渡戸・森本関連の史料を入手した。</p> <p>3) 新渡戸稲造関連の絵葉書類の整理を行った。</p> <p>4) (一財)新渡戸基金、盛岡市先人記念館と情報交換を行った。</p> <p>5) 私学としての歴史を説明できる新たな資料の収集に努めた。</p>